

科目名	日本語学の基礎 I		
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	日本語の歴史の概要・日本語の特徴を説明できる。	1
科目概要	授業内容	言葉は変化するものであり、その変化の結果、古代の日本語は現在の姿になった。では、日本語はどのように変化してきたのだろうか。また、なぜ変化したのだろうか。本講義では、日本語の歴史の概要を把握したうえで、日本語の歴史をとらえるための視点について解説する。	
	到達目標	1. 日本語の歴史について、その流れを略述し、重要事項が説明できるようになる。 2. 日本語の歴史、および言語の変化に関する問題点に気付くことができ、その問題について考える姿勢を身につける。	
授業計画	(1) ガイダンス・漢字の移入 (2) 奈良時代の資料 (3) 奈良時代の音韻・語彙・文体・文法 (4) 平安時代の文字・音韻 (5) 平安時代の語彙・文体・文法 (6) 鎌倉時代の文字・音韻 (7) 鎌倉時代の語彙・文体 (8) 鎌倉時代の文法 (9) 室町時代の文字・音韻・語彙・文体 (10) 室町時代の文法 (11) 江戸時代前期の文字・音韻・文法・待遇表現 (12) 江戸時代後期の文字・音韻・文法・待遇表現 (13) 明治時代以後の文字・音韻 (14) 明治時代以後の語彙・文体・文法 (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行うため、授業内容をよく復習しておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】 近藤泰弘他『新訂日本語の歴史』放送大学振興会、2005年、ISBN 4595305474 【参】 山口仲美『日本語の歴史』岩波新書、2006年、ISBN 4004310180		
成績評価方法と基準	<基準> 日本語の文字・音韻・語彙・文体・文法について、基礎的なことが理解できているものは合格とする。 <方法> 期末試験50%、小テスト30%、受講態度20%		
備考			

科目名	日本語学の基礎Ⅱ		
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	日本語の歴史の概要・日本語の特徴を説明できる。	2
科目概要	授業内容	日本語はどのように形成されてきたのであろうか。この授業では、まず、日本語の変遷の諸相を把握するための方法について、必要な資料や調査法、考え方などを解説する。そのうえで、文献調査とその分析方法について実践し、文献による日本語史研究の方法を身につける。	
	到達目標	1. 日本語史研究にかかわる文献資料についての知識を得る。 2. 文献による日本語史研究の手続きを理解し、それにしたがって調査をおこなうことができるようになる。 3. 調査にもとづいて報告し、議論をおこなうことができるようになる。	
授業計画	(1) ガイダンス (2) 日本語史研究の方法① (3) 日本語史研究の方法② (4) 日本語史研究の方法③ (5) 演習発表① (6) 演習発表② (7) 演習発表③ (8) 演習発表④ (9) 演習発表⑤ (10) 演習発表⑥ (11) 演習発表⑦ (12) 演習発表⑧ (13) 演習発表⑨ (14) 演習発表⑩ (15) まとめ		
自学自習	事前学習	意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	前回の授業内容をよく復習すること。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 【参】 授業時に適宜指示する。		
成績評価方法と基準	<基準>	文献による日本語史研究の手続きを理解し、それにしたがって調査をおこなうことができ、また、その調査結果を報告・議論することができれば、合格とする。	
	<方法>	演習発表50%、レポート30%、受講態度20% ※演習発表を行わなかった場合は、その時点で不可とする。	
備考			

科目名	日本語の音声		
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	豊かなコミュニケーション能力・日本文化を発信する能力	日本語の音声の特徴を理解し、適切な日本語で伝達したい内容を表現できる。	2
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	日本語の音声の特徴を説明できる。	3
科目概要	授業内容	音声(声)とは何だろうか? 音声はどのように作られているのだろうか? 本講義では、日本語に重点をおきながら、一般音声学について解説する。 具体的には、「か」や「さ」には「が」「ご」といった濁音があるが、「あ」や「ま」などにはなぜ濁音がないのだろうかといった疑問に答えられる力を身につけられるよう、発声や発音のしくみについて理解を深めていく。	
	到達目標	1. 発声や発音の仕組みについて理解し、重要事項が説明できるようになる。 2. 標準的な現代日本語の音声における母音・子音・アクセントなどの特徴を理解し、それを説明できるようになる。	
授業計画	(1) ガイダンス (2) 音声学 (3) 音声 (4) 音韻 (5) 子音 (6) 母音 (7) 音節とモーラ (8) 現代日本語の音声① (9) 現代日本語の音声② (10) アクセント① (11) アクセント② (12) イントネーションとプロミネンス (13) リズムとポーズ (14) 鹿児島方言の音声 (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行うため、授業内容をよく復習しておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】 沖森卓也『日本語概説』朝倉書店、2010年、ISBN 4254515235 【参】 斎藤純男『日本語音声学入門 改訂版』三省堂、2006年、ISBN 4385345880 松崎寛・河野俊之『よくわかる音声』(CD付)アルク、1998年、ISBN 4872349415		
成績評価方法と基準	<基準> 発声・発音のしくみや、日本語の音声における子音・母音・アクセントなどの基礎的なことが習得できており、また、現代日本語の音声の特徴などが理解できていれば、合格とする。 <方法> 期末試験50%、小テスト30%、受講態度20%		
備考	教科書は、後期に開講する「日本語の文法」でも同じものを使用する。		

科目名	日本語の文法		
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	日本語の文法の特徴を説明できる。	3
科目概要	授業内容	ことばの規則とは何だろうか? 「私は行く」と「私が行く」は同じだろうか? 「は」と「が」の違いとは何だろうか? 少し立ち止まって考えてみると、疑問に思うことがたくさんある。このような日本語文法の疑問に注目しながら、日本語の文法についての理解を深めていく。	
	到達目標	1. 日本語の文法について理解を深める。 2. 文法理論および文法概念について理解する。 3. 日本語を客観的に見つめ、文法規則を見出す姿勢を身につける。 4. 現代日本語の文法のような問題に気付くことができ、その問題について考えをまとめることができる。	
授業計画	(1) ガイダンス (2) 語の意味 (3) 文の構造と成分① (4) 文の構造と成分② (5) 自動詞と他動詞 (6) 受動態と使役態 (7) 授受表現 (8) テンス (9) アスペクト (10) モダリティー (11) 主題と主語 (12) 複文 (13) 待遇表現 (14) 言葉のバリエーション (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行うため、授業内容をよく復習しておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】 沖森卓也『日本語概説』朝倉書店、2010年、ISBN 4254515235 【参】 庵功雄『新しい日本語学入門—ことばのしくみを考える—』スリーエーネットワーク、2001年、ISBN 4883191788 加藤重広『日本語文法入門ハンドブック』研究社、2006年、ISBN 432738450X		
成績評価方法と基準	<基準> 日本語の文法や文法理論について基礎的なことが理解できており、また、現代日本語文法の様々な問題点に気付き、その問題について考えをまとめることができれば、合格とする。 <方法> 期末試験50%、小テスト30%、受講態度20%		
備考	教科書は、前期に開講する「日本語の音声」でも同じものを使用する。		

科目名	日本語の表現		
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	様々な文章表現の特徴を理解し、実用文が書ける。	1
	豊かなコミュニケーション能力・日本文化を発信する能力	日本語の文章表現の特徴を理解し、適切な日本語で伝達したい内容を表現できる。	1
科目概要	授業内容	言葉で「表現」することによって、私たちは自己を表現し、他者やこの世界の出来事を理解している。だが「表現」の仕方には多くの方法がある。そこで、身の回りにあふれている日本語の表現方法を探り、実際の表現方法の特徴を見出す分析力を養うことをめざす。また、実際に表現活動を行い、表現力を磨いていく。	
	到達目標	1. 手紙やビジネス文書など、実用文が書けるようになる。 2. 様々な文章表現の特徴を理解し、自己表現の手だての一つとして会得することができるようになる。 3. 様々な敬語表現の特徴を理解し、実践できるようになる。	
授業計画	(1) ガイダンス (2) 文章を書く上での基本的ルール (3) 小論文・レポートの書き方① (4) 小論文・レポートの書き方② (5) 小論文・レポートの書き方③ (6) 小論文・レポートの書き方④ (7) 手紙の書き方① (8) 手紙の書き方② (9) ビジネス文書の書き方① (10) ビジネス文書の書き方② (11) さまざまな文章表現① (12) さまざまな文章表現② (13) 敬語表現 (14) 面接試験時の対応 (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・「参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・新たに出た課題を行うこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 【参】 長谷川泉『国語表現ハンドブック 新訂版』明治書院、2000年、ISBN 4625200040 大本泉他編『日本語表現—演習と発展— 改訂版』明治書院、2011年、ISBN 4625704081		
成績評価方法と基準	<基準> 文章表現の特徴を理解し、実用文・小論文などを書くことができ、また、敬語表現の特徴を理解・実践できるようになれば、合格とする。 <方法> 各種レポート90%、受講態度10% ※レポート類をすべて提出することを単位取得の条件とする。		
備考			

科目名	日本語と社会		
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	日本語と社会との関係を理解し、適切な日本語を用いて様々な内容を表現できる。	3
	豊かなコミュニケーション能力・日本文化を発信する能力	日本語と社会の関係を理解しながら、適切な日本語を用いてコミュニケーションを行うことができる。	3
科目概要	授業内容	私たちが日常生活で使用する言葉は様々であるが、すべて社会とのつながりを持っている。そこで、社会生活において言葉がどのように使われているのか、具体的な人間の行動とのかかわりの中で、日本語と社会との関係を考えていくことにする。	
	到達目標	1. 社会言語学の意義を知り、言語を研究する姿勢を身につける。 2. 日本語の仕組みや、日本語と社会の関係について考えをまとめることができる。	
授業計画	(1) ガイダンス (2) 社会言語学とは (3) 属性とことば① (4) 属性とことば② (5) 言語行動 (6) 言語生活 (7) 言語接触① (8) 言語接触② (9) 言語変化① (10) 言語変化② (11) 言語変化③ (12) 言語意識 (13) 言語習得 (14) 言語計画 (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・「参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行うため、授業内容をよく復習しておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 真田信治他『社会言語学』おうふう、1992年、ISBN 4273026023 【参】 岡本佐智子『日本語教育能力検定試験に合格するための社会言語学10』アルク、2008年、ISBN 4757414978		
成績評価方法と基準	<基準> 社会言語学の意義、内容が理解できていれば、合格とする。 <方法> 期末試験50%、小テスト30%、受講態度20%		
備考			

科目名	日本文学史 I		
担当者	山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次		
授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	・日本文学および中国文学の歴史・特徴・背景を説明できる。 ・歴史・特徴・背景を理解して作品を読もうとする態度を身につける。	1
科目概要	授業内容	日本の古代から中世までの文学（古典）の流れを概観する。各時代の主要な作品を1つずつ取り上げて解説し、原文の一部を書写、音読、鑑賞しながら、文学の特質やジャンルについて理解を深める。	
	到達目標	1) 上代・中古・中世・近世・近代という時代区分を知る。 2) 主要な作品の成立時期・作者・内容を理解する。 3) 主要な作品の原文を正しく読み、書ける。	
授業計画	(1) 時代区分とジャンルについて (2) 古事記 (3) 万葉集 (4) 竹取物語 (5) 古今和歌集 (6) 蜻蛉日記 (7) 枕草子 (8) 源氏物語 (9) 和泉式部日記 (10) 大鏡 (11) 今昔物語集 (12) 新古今和歌集 (13) 平家物語 (14) ビデオ「平安貴族の生活」視聴 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・参考文献を前もって読み、授業で取り上げられる作品の概略を理解しておくこと。	
	事後学習	・授業で出た原文の音読をし、暗唱できるようになる。 ・授業で出た作品の感想をまとめる。	
使用教材・参考文献	【教】	プリントを配布する	
	【参】	小山弘志編『日本文学新史』至文堂 1990年 岩波講座『日本文学史』岩波書店 1995年	
成績評価方法と基準	<基準>	主要な作品の時代区分・作者・内容を理解し、原文を正しく音読、書写出来れば合格とする。	
	<方法>	テスト (70%)、提出物 (20%)、受講態度 (10%)	
備考	毎回、原稿用紙を持ってくること。		

科目名	日本文学史Ⅱ		
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	歴史・特徴・背景を理解して作品を読もうとする態度を身につける。	1
科目概要	授業内容	テキストを参照しながら近代日本文学史を概説する。各時代の代表的な作家、作品、思潮を解説する。	
	到達目標	近代日本文学史の流れを理解し、代表的な作家、作品を知る。	
授業計画	(1) ガイダンス 「近代/日本/文学/史」を考える (2) 近世文学と近代文学 (3) 硯友社の文学 (4) 日清戦争と文学 (5) 自然主義の文学 (6) 反自然主義の文学 (7) 耽美派の文学 (8) 白樺派の文学 (9) 私小説と心境小説 (10) 詩歌の近代 (11) プロレタリア文学 (12) モダニズム文学と文芸復興 (13) 戦時下の文学 (14) 戦後の文学 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	各授業終了時にコメントシートを記入し、提出。	
使用教材・参考文献	【教】 三好行雄編『近代日本文学史』有斐閣 1975 ISBN4-641-09795-X 【参】 年表の会編『近代文学年表』双文社出版 1993 ISBN4-88164-031-3		
成績評価方法と基準	<基準> 近代日本文学史に対する理解、関心が深められれば合格とする。 <方法> レポート60%、受講態度30%、コメントシート10% ただしそれぞれ合格点を満たしていること。		
備考			

科目名	古代文学講読 I		
担当者	山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	・日本文学および中国文学作品を読んで、内容と特色を説明できる。 ・それらに関連する作品へと読書の対象を積極的に広げようとする態度を身につける。	2
科目概要	授業内容	『伊勢物語』を演習形式で読む。簡潔な文章と和歌から成る原文を丁寧に読み解くことにより、人間の愛情の種々相をいかに描いているか、作品の魅力はどこにあるかを探る。	
	到達目標	1) 原文を声に出して正しく読める。 2) 古語辞書を用いて古語の意味を調べ、現代語訳ができる。 3) 参考文献を用いて各段の内容を理解し、説明できる。	
授業計画	(1) 概説(時代背景・歌物語・成立・作者・在原業平) (2) 〃(書名・伝本・内容と構成)、担当段と日程の調整 (3) 初段 初冠(演習モデル)、参考文献紹介 (4) 第5段 関守(以下、受講者が一段ずつ担当し発表、質疑応答) (5) 第6段 芥川 〃 (補遺) (6) 第9段 東下り (7) 〃 (補遺) (8) 第23段 筒井筒 (9) 〃 (補遺) (10) 第24段 梓弓 (11) 第63段 つくも髪 (12) 第69段 狩の使 (13) 〃 (補遺) (14) 第84段 長岡の母 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・原文を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない言葉・部分をチェックしておくこと。	
	事後学習	・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・関連した知識や情報を調べて更に理解を深める。	
使用教材・参考文献	【教】 松尾聡・永井和子校注『伊勢物語』笠間書院 1999年 ISBN4305000539 【参】 新編日本古典文学全集『伊勢物語他』小学館1994年 ISBN096580120 新潮日本古典集成『伊勢物語』新潮社 1976年		
成績評価方法と基準	<基準> 演習資料の作成、発表、質疑応答が出来、その成果をレポートとして提出すれば合格とする。 <方法> レポート(50%)、演習(40%)、授業参加度(10%)		
備考	毎回、古語辞書を持ってくること。		

科目名	古代文学講読Ⅱ		
担当者	山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	・日本文学および中国文学作品を読んで、内容と特色を説明できる。 ・それらに関連する作品へと読書の対象を積極的に広げようとする態度を身につける。	2
科目概要	授業内容	『百首一首』を演習形式で読む。和歌1首1首を丁寧に読み解くことにより、古代の人々の四季や恋・死・旅などに対する表現と精神の特質を知る。	
	到達目標	1) 和歌を声に出して正しく読める。 2) 古語辞書を用いて古語の意味を調べ、現代語訳ができる。 3) 参考文献を用いて和歌の内容を理解し、説明できる。 4) 和歌文学の基本的な知識を身につける。	
授業計画	(1) 概説(和歌の基礎知識と秀歌撰について) (2) 『百首一首』の撰者・成立・内容 (3) 1番天智天皇(演習モデル)、参考文献紹介、担当段と日程の調整 (4) 演習(受講者が好きな歌を1首ずつ担当し発表、質疑応答) (5) 〃 (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 『百首一首』カルタ大会 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・テキストを前もって読んでおく。 ・意味のわからない言葉・部分をチェックしておく。	
	事後学習	・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・授業で出た歌を暗唱する。	
使用教材・参考文献	【教】 谷知子編『百首一首(全)』角川ソフィア文庫 2010年 ISBN9784044072186 【参】 島津忠夫『新版百首一首』角川ソフィア文庫 1999年 ISBN404404001X 井上宗雄『百首一首を楽しくよむ』笠間書院 2003年 ISBN4305702525		
成績評価方法と基準	<基準> 演習資料の作成、発表、質疑応答が出来、その成果をレポートとして提出すれば合格とする。 <方法> レポート(50%)、演習(40%)、受講態度(10%)		
備考	毎回、古語辞書を持ってくること。		

科目名	中世文学講読 I		
担当者	山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	・日本文学および中国文学作品を読んで、内容と特色を説明できる。 ・それらに関連する作品へと読書の対象を積極的に広げようとする態度を身につける。	2
科目概要	授業内容	『方丈記』を演習形式で読む。洗練された格調高い文体を味わいつつ、五大災厄、数寄の精神と仏道、庵居の機微をめぐる長明の思想を読みとり、中世草庵文学の特質を知る。	
	到達目標	1) 『方丈記』を受講者全員で最後まで読み通す。 2) 古語辞書を用いて古語の意味を調べ、現代語訳ができる。 3) 参考文献を用いて内容を理解し、説明できる。	
授業計画	(1) 概説(時代背景・随筆・鴨長明) (2) 〃(成立・書名・内容・伝本)、担当段と日程の調整 (3) 『発心集』『無名抄』、大福光寺本方丈記(複製) (4) ゆく河のながれ(演習モデル)、参考文献紹介 (5) 安元の大火/治承の辻風(以下、受講者が担当し発表、質疑応答) (6) 福原への遷都 (7) 養和の飢饉 (8) 元暦の大地震/すべて世の中ありにくく (9) あられぬ世を念じすぐしつ/末葉の宿り (10) 日野山の奥にあとをかくして/春は藤波を見る (11) もし、うららかなれば/もし、夜、静かなれば (12) 仮の庵もややふるさととなりて/手の奴、足の乗物 (13) 三界はただ心ひとつ/静かなる暁 (14) 補遺(演習予備回) (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・原文を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない言葉・部分をチェックしておくこと。	
	事後学習	・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・関連した知識や情報を調べて更に理解を深める。	
使用教材・参考文献	【教】 浅見和彦編『カラー版方丈記・伊勢記』おうふう 2001 ISBN4273031590 【参】 梁瀬一雄『方丈記全注釈』角川書店 1971年 新編日本古典文学全集『方丈記他』小学館 1995年 ISBN ISBN4096580449		
成績評価方法と基準	<基準> 演習資料の作成、発表、質疑応答が出来、その成果をレポートとして提出すれば合格とする。 <方法> レポート(50%)、演習(40%)、授業参加度(10%)		
備考	毎回、古語辞書を持ってくること。		

科目名	中世文学講読Ⅱ		
担当者	山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	・日本文学および中国文学作品を読んで、内容と特色を説明できる。 ・それらに関連する作品へと読書の対象を積極的に広げようとする態度を身につける。	2
科目概要	授業内容	『徒然草』を演習形式で読む。『徒然草』に描かれた兼好の美意識・教養・趣味・思想・説話を自分なりに味読・鑑賞する。また、変体仮名を読むことに挑戦し、古典を原典から読む醍醐味を味わう。古写本の知識を得る。	
	到達目標	1) 手引きを使って変体仮名が読めるようになる。 2) 本文校訂ということを知る。 3) 参考文献を用いて各段の内容を理解し、自分なりの解釈と意見を述べられる。	
授業計画	(1) 文字の歴史・仮名について、変体仮名の読解練習① (2) 概説(時代背景・随筆・兼好・書名)、変体仮名の読解練習② (3) 〃(成立・内容・伝本・古注釈書・正徹本)、担当段と日程の調整 (4) つれづれなるままに(演習モデル)、参考文献紹介 (5) 変体仮名の読解練習③ (6) 演習(以下、受講者が好きな段を担当し発表、質疑応答) (7) 演習 (8) 演習 (9) 演習 (10) 変体仮名の読解練習④、パロディの作成 (11) 演習、パロディの発表と講評 (12) 演習 (13) 演習 (14) 補遺、仮名テスト (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	毎回、宿題として出された変体仮名を手引を用いて翻字してくること。	
	事後学習	・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・関連した知識や情報を調べて更に理解を深める。	
使用教材・参考文献	【教】 稲田利徳編『校注徒然草』和泉書院 1987年 ISBN4870882671 【参】 安良岡康作『徒然草全注釈上・下』角川書店 1967年 ISBN4047610070/4047610089 新編日本古典文学全集『徒然草他』小学館 1995年 ISBN4096580449		
成績評価方法と基準	<基準> 演習資料の作成、発表、質疑応答が出来、変体仮名が読めるようになれば合格とする。 <方法> 演習(50%)、仮名テスト(40%)、授業参加度(10%)		
備考	毎回、古語辞書を持ってくること。		

科目名	近世文学講読 I		
担当者	亀井 森 / KAMEI, Shin		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	・日本文学および中国文学作品を読んで、内容と特色を説明できる。	2
科目概要	授業内容	日本の代表的な怪談である上田秋成の『雨月物語』の中から「吉備津の釜」をとりあげ、古典の奥深さに触れる。	
	到達目標	江戸時代の版本を読解できるようにくずし字を練習し、古典和歌や中国との関わりにも視野を広げ、広く国文学と国語に関心を持つようになる。	
授業計画	本講義では版本だけでなく、活字、まんがやその他のメディアを利用して『雨月物語』が描こうとした世界を理解したいと考えている。 適宜小テストを行う。		
	(1) ガイダンス・基礎の確認 (2) くずし字とはなにか。 (3) 江戸時代について (4) 上田秋成について (5) 「吉備津の釜」読解 (6) 「吉備津の釜」読解 (7) 「吉備津の釜」読解 (8) 「吉備津の釜」読解 (9) 「吉備津の釜」読解 (10) 「吉備津の釜」読解 (11) 「吉備津の釜」読解 (12) 「吉備津の釜」読解 (13) 「吉備津の釜」読解 (14) 「吉備津の釜」読解 (15) 授業の総括		
自学自習	事前学習	使用教材を前もって読んでおくこと。	
	事後学習	授業の初めに前回の授業内容を確認するので、復習をしておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】 プリントを適宜配布する。 【参】 授業の初めに前回の授業内容を確認するので、復習をしておくこと。		
成績評価方法と基準	<基準> 下記評価方法によって60%以上を合格とする。 <方法> レポート・小テスト (20%)、受講態度 (30%)、最終試験 (50%)		
備考			

科目名	近世文学講読Ⅱ		
担当者	亀井 森 / KAMEI, Shin		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	・日本文学および中国文学作品を読んで、内容と特色を説明できる。	2
科目概要	授業内容	日本の代表的な怪談である上田秋成の『雨月物語』の中から「蛇性の姪(じゃせいのいん)」をとりあげ、古典の奥深さに触れる。	
	到達目標	江戸時代の版本を読解できるようにくずし字を練習し、古典和歌や中国との関わりにも視野を広げ、広く国文学と国語に関心を持つようになる。	
授業計画	<p>本講義では版本だけでなく、活字、まんがやその他のメディアを利用して『雨月物語』が描こうとした世界を理解したいと考えている。 適宜小テストを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス・基礎の確認 (2) くずし字とはなにか。 (3) 江戸時代について (4) 上田秋成について (5) 「蛇性の姪」読解 (6) 「蛇性の姪」読解 (7) 「蛇性の姪」読解 (8) 「蛇性の姪」読解 (9) 「蛇性の姪」読解 (10) 「蛇性の姪」読解 (11) 「蛇性の姪」読解 (12) 「蛇性の姪」読解 (13) 「蛇性の姪」読解 (14) 「蛇性の姪」読解 (15) 授業の総括 		
自学自習	事前学習	使用教材を前もって読んでおくこと。	
	事後学習	授業の初めに前回の授業内容を確認するので、復習をしておくこと。	
使用教材・参考文献	<p>【教】 プリントを適宜配布する。</p> <p>【参】 上田秋成『雨月物語』(鶴月洋訳注、角川ソフィア文庫、平成18年、ISBN978-4-04-401102-4)</p>		
成績評価方法と基準	<p><基準> 下記評価方法によって60%以上を合格とする。</p> <p><方法> レポート・小テスト(20%)、受講態度(30%)、最終試験(50%)</p>		
備考			

科目名	近代文学講読 I		
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	日本文学および中国文学作品を読んで、内容と特色を説明できる。	2
科目概要	授業内容	戦後に発表された代表的な短編小説を講読し、近代文学の読み方、発表の方法の基本を養う。	
	到達目標	小説作品についての調査、発表の方法の基礎が理解できるようになる。	
授業計画	(1) ガイダンス 発表の方法・分担 (2) 中里恒子「墓地の春」 (3) 石川淳「焼跡のイエス」 (4) 原民喜「夏の花」 (5) 坂口安吾「桜の森の満開の下」 (6) 野間宏「顔の中の赤い月」 (7) 梅崎春生「蜆」 (8) 尾崎一雄「虫のいろいろ」 (9) 武田泰淳「もの喰う女」 (10) 永井龍男「胡桃割り」 (11) 林芙美子「水仙」 (12) 大岡昇平「出征」 (13) 長谷川四郎「小さな礼拝堂」 (14) 安部公房「プルトーのわな」 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・議論の対象となる作品は事前に必ず読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	発表者は次の授業時の司会、及び議論の口火を切る質問をするので準備すること。	
使用教材・参考文献	【教】	紅野敏郎・紅野謙介他編『日本近代短篇小説選 昭和篇2』 2012年 岩波文庫 ISBN978-4-00-311915-0	
	【参】	授業時に適宜指示する。	
成績評価方法と基準	<基準>	作品を読む初歩的な方法が身についたと確認できれば合格とする。	
	<方法>	発表40%、レポート30%、受講態度30% ただしそれぞれ合格点を満たしていること。	
備考			

科目名	近代文学講読Ⅱ		
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	日本文学および中国文学作品を読んで、内容と特色を説明できる。	2
科目概要	授業内容	昭和30年前後～40年前後の代表的な短編小説を講読し、近代文学の読み方、発表の方法の基本を養う。	
	到達目標	小説作品についての調査、発表の方法の基礎が理解できるようになる。	
授業計画	(1) ガイダンス 発表の方法・分担 (2) 小島信夫「小銃」 (3) 吉行淳之介「驟雨」 (4) 幸田文「黒い裾」 (5) 庄野潤三「結婚」 (6) 中野重治「萩のもんかきや」 (7) 円地文子「二世の縁 拾遺」 (8) 花田清輝「群猿図」 (9) 富士正晴「帝国軍隊に於ける学習・序」 (10) 山川方夫「夏の葬列」 (11) 島尾敏雄「出発は遂に訪れず」 (12) 埴谷雄高「闇のなかの黒い馬」 (13) 深沢七郎「無妙記」 (14) 三島由紀夫「蘭陵王」 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・議論の対象となる作品は事前に必ず読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	発表者は次の授業時の司会、及び議論の口火を切る質問をするので準備すること。	
使用教材・参考文献	【教】	紅野敏郎・紅野謙介他編『日本近代短編小説選 昭和篇3』 2012年 岩波文庫 ISBN978-4-00-311916-7	
	【参】	授業時に適宜指示する。	
成績評価方法と基準	<基準>	作品を読む初歩的な方法が身についたと確認できれば合格とする。	
	<方法>	発表40%、レポート30%、受講態度30% ただしそれぞれ合格点を満たしていること。	
備考			

科目名	中国文学概説 I		
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	・日本文学および中国文学の歴史・特徴・背景を説明できる。 ・歴史・特徴・背景を理解して作品を読もうとする態度を身につける。	1
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている	2
科目概要	授業内容	古代から六朝時代までの中国文学史。但し中国の伝統的な意味での「文学」を、その担い手「士大夫」の活動という視点で講じる。	
	到達目標	中国古典文学の主要なジャンルに親しみ基本知識を得る。 中国古典文学の社会的位置づけを理解する。	
授業計画	(1) 授業のオリエンテーションと中国古典を理解するための基礎知識 (2) 「文学」とは何か (3) 士大夫と中国の伝統的書籍分類体系 (4) 『詩経』について (5) 儒家思想と文学との関係 1 (6) 漢代の賦 1 司馬相如「上林賦」を読む (7) 漢代の賦 2 揚雄 (8) 漢代の詩と五言詩の起源 (9) 三国時代の詩 1 (10) 三国時代の詩 2 (11) 「三国時代における文学の独立」 (12) 儒家思想と文学との関係 2 (13) 『文選』と「文」 (14) 『詩品』と『文心雕龍』 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	授業内容の復習。特に資料と結論との関係を再確認すること。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 鈴木修次編『文学史』中国文化叢書5 大修館書店1967年 【参】 鈴木修次編『文学概論』中国文化叢書4 大修館書店1968年 近藤春雄『中国学芸大辞典』大修館書店1987年		
成績評価方法と基準	<基準> 授業内容に応じた中国古典文学に関する知識と理解があれば合格とする。 <方法> 筆記試験60% 出席態度40%		
備考			

科目名	中国文学概説Ⅱ		
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	・日本文学および中国文学の歴史・特徴・背景を説明できる。 ・歴史・特徴・背景を理解して作品を読もうとする態度を身につける。	1
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている	2
科目概要	授業内容	中国文学概説Ⅰで採りあげられなかった中国古典の重要なジャンルについての講義。	
	到達目標	中国古典文学の主要なジャンルに親しみ基本知識を得る。 中国古典文学の社会的位置づけを理解する。	
授業計画	(1) 授業のオリエンテーションと中国古典を理解するための基礎知識 (2) 楚辞と屈原 1 (3) 楚辞と屈原 2 (4) 司馬遷と『史記』 (5) 正史の形式 (6) 『史記』司馬相如列伝を読む (7) 中国の叙事詩 1 (8) 中国の叙事詩 2 (9) 娯楽としての悲哀 (10) 中国の小説 1 「小説」とは何か (11) 中国の小説 2 志怪小説と志人小説 (12) 士大夫と詩 1 阮籍 (13) 士大夫と詩 2 陶淵明 (14) 士大夫と詩 3 顧炎武「詩は必ずしも人々皆作るにあらず」 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	授業内容の復習。特に資料と結論との関係を再確認すること。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 鈴木修次編『文学史』中国文化叢書5 大修館書店1967年 【参】 鈴木修次編『文学概論』中国文化叢書4 大修館書店1968年 近藤春雄『中国学芸大辞典』大修館書店1987年		
成績評価方法と基準	<基準> 授業内容に応じた中国古典文学に関する知識と理解があれば合格とする。 <方法> 筆記試験60% 出席態度40%		
備考			

科目名	中国文学講読（詩） I		
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	・日本語の歴史の概要・日本語の特徴を説明できる。・様々な文章表現の特徴を理解し、実用文が書ける。・漢字・漢語・漢文脈の文章の読み書きと、漢和辞典の活用ができる。・日本語を正確に美しく書写・表記できる。	1
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	・日本文学および中国文学作品を読んで、内容と特色を説明できる。 ・それらに関連する作品へと読書の対象を積極的に広げようとする態度を身につける。	2
科目概要	授業内容	唐詩の演習。Iでは『唐詩選』所収の初唐、盛唐の詩を採り上げる。担当者は一回につき絶句一篇を担当し、原文、書き下し文、語釈、通釈と、必要に応じて典故、事項、時代背景などの説明を含むレジュメを作成し、授業で説明して質問に応じる。	
	到達目標	漢和辞典を活用できるようになる。 漢字と漢文訓読に習熟する。 詩を表現技巧と構成に基づいて解釈し、その内容を説明する方法を実践で学ぶ。	
授業計画	(1) オリエンテーションと演習担当日程の決定 (2) 演習の手本 (3) 演習 (4) 〃 (5) 〃 (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	授業内容の復習。特に、分からない文字、熟語を漢和辞典で確認すること。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 【参】 小川環樹編 『唐代の詩人』 大修館書店 1975年 植木久行編 『唐詩の風土』 研文出版 1983年 野口一雄 『漢詩歳時記』 講談社 1995年		
成績評価方法と基準	<基準> 演習の準備と発表の努力と結果が到達目標に相応しいと認められれば合格とする。 <方法> 演習60% 出席態度40%		
備考			

科目名	中国文学講読（詩）Ⅱ		
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya		
科目情報	人間文化＜日本語日本文学＞ / 選択必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	・日本語の歴史の概要・日本語の特徴を説明できる。 ・様々な文章表現の特徴を理解し、実用文が書ける。 ・漢字・漢語・漢文脈の文章の読み書きと、漢和辞典の活用ができる。 ・日本語を正確に美しく書写・表記できる。	1
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	・日本文学および中国文学作品を読んで、内容と特色を説明できる。 ・それらに関連する作品へと読書の対象を積極的に広げようとする態度を身につける。	2
科目概要	授業内容	唐詩の演習。Ⅱでは中唐、晩唐の詩を適宜採り上げる。担当者は一回につき絶句一篇を担当し、原文、書き下し文、語釈、通釈と、必要に応じて典故、事項、時代背景などの説明を含むレジュメを作成し、授業で説明して質問に応じる。	
	到達目標	漢和辞典を活用できるようになる。 漢字と漢文訓読に習熟する。 詩を表現技巧と構成に基づいて解釈し、その内容を説明する方法を実践で学ぶ。	
授業計画	(1) オリエンテーションと演習担当日程の決定 (2) 演習の手本 (3) 演習 (4) 〃 (5) 〃 (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	授業内容の復習。特に、分からない文字、熟語を漢和辞典で確認すること。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 【参】 小川環樹編 『唐代の詩人』 大修館書店 1975年 植木久行編 『唐詩の風土』 研文出版 1983年 野口一雄 『漢詩歳時記』 講談社 1995年		
成績評価方法と基準	<基準> 演習の準備と発表の努力と結果が到達目標に相応しいと認められれば合格とする。 <方法> 演習60% 出席態度40%		
備考			

科目名	中国文学講読（散文）Ⅰ		
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya		
科目情報	人間文化＜日本語日本文学＞ / 選択必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	・日本語の歴史の概要・日本語の特徴を説明できる。 ・様々な文章表現の特徴を理解し、実用文が書ける。 ・漢字・漢語・漢文脈の文章の読み書きと、漢和辞典の活用ができる。 ・日本語を正確に美しく書写・表記できる。	1
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	・日本文学および中国文学作品を読んで、内容と特色を説明できる。 ・それらに関連する作品へと読書の対象を積極的に広げようとする態度を身につける。	2
科目概要	授業内容	唐代伝奇小説の演習。担当者は指定された範囲の原文、書き下し文、語釈、通釈と、必要に応じて典故、事項、時代背景などの説明を含むレジュメを作成し、授業で説明して質問に応じる。	
	到達目標	漢和辞典を活用できるようになる。 漢字と漢文訓読に習熟する。 古典を読解し、その内容を説明する方法を実践で学ぶ。	
授業計画	(1) オリエンテーションと演習担当日程の決定 (2) 演習の手本 (3) 演習 (4) 〃 (5) 〃 (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	授業内容の復習。特に、分からない文字、熟語を漢和辞典で確認すること。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 月刊 『しにか97/3 中国古典小説入門Ⅰ』 大修館書店 1997年 【参】 月刊 『しにか97/10 中国古典小説入門Ⅰ』 大修館書店 1997年 『幻想文学44 中国幻想小説必携』 アトリエOCTA 1995年		
成績評価方法と基準	<基準> 演習の準備と発表の努力と結果が到達目標に相応しいと認められれば合格とする。 <方法> 演習60% 出席態度40%		
備考			

科目名	古代文学特講		
担当者	山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	日本文学および中国文学作品を読んで、時代とジャンルによる違いを説明できる。	3
科目概要	授業内容	『源氏物語』の桐壺巻を演習形式で読む。千年に亘り読み継がれる日本文学最高峰の魅力の一端を味わう。	
	到達目標	1) 原文を声に出して正しく読める。 2) 古語辞書を用いて古語の意味を調べ、現代語訳ができる。 3) 参考文献を用いて各段の内容を理解し、説明できる。 4) 物語世界の大枠をつかむ。	
授業計画	(1) 概説(物語の系譜・作者紫式部について) (2) 〃(物語の構造)、担当段と日程の調整 (3) 桐壺の概説、登場人物系図と年立、参考文献紹介 (4) 冒頭・いつれの御時にか(演習モデル) (5) 演習(以下、受講者が順次担当し発表、質疑応答) (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 CD・ビデオ視聴 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 長恨歌について (13) 〃 (14) 〃 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・原文を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない言葉・部分をチェックしておくこと。	
	事後学習	・演習資料の現代語訳を用いて、内容を再確認すること。 ・疑問点があれば、次回質問できるようにしておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】 森一郎編『大島本源氏物語 桐壺』和泉書院 1991年 ISBN4870884593 【参】 新編日本古典文学全集『源氏物語1~6』小学館 1994年 ISBN09658020~09658025 玉上琢弥『源氏物語評釈1~12・別巻1~2』角川書店 1964~1969年		
成績評価方法と基準	<基準> 演習資料の作成、発表、質疑応答が出来、その成果をレポートとして提出すれば合格とする。 <方法> レポート(50%)、演習(40%)、授業参加度(10%)		
備考	毎回、古語辞書を持ってくること。		

科目名	近世文学特講		
担当者	丹羽 謙治 / NIWA, Ken'ji		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	・日本文学および中国文学作品を読んで、時代とジャンルによる違いを説明できる。 ・日本文学および中国文学の分野における論点と分析方法を理解し、卒業論文のテーマを見つけ出せる。	3
科目概要	授業内容	近世演劇の中でも最も有名な演目のひとつである『仮名手本忠臣蔵』を読み進めながら、その成立の背景や日本人に親しまれてきた理由などを探ります。適宜、実際の舞台の映像の鑑賞も行います。	
	到達目標	歌舞伎・浄瑠璃といった近世演劇の特質を理解できる。近世演劇の成立する背景や環境について正しい認識をもつことができる。	
授業計画	(1) 導入 赤穂事件の概要 (1) (2) 赤穂事件の概要 (2) (3) 赤穂事件の劇化の様相 (4) 『仮名手本忠臣蔵』の成立 (5) 『仮名手本忠臣蔵』大序 (6) 『仮名手本忠臣蔵』三段目 (1) (7) 『仮名手本忠臣蔵』三段目 (2) (8) 『仮名手本忠臣蔵』四段目 (9) 『仮名手本忠臣蔵』五段目 (1) (10) 『仮名手本忠臣蔵』五段目 (2) (11) 『仮名手本忠臣蔵』六段目 (1) (12) 『仮名手本忠臣蔵』六段目 (2) (13) 『仮名手本忠臣蔵』七段目 (1) (14) 『仮名手本忠臣蔵』七段目 (2) (15) 『仮名手本忠臣蔵』十一段目 まとめ		
自学自習	事前学習	・配布されたテキストを前もって読んでおくこと。	
	事後学習	・特殊な専門用語を確認し記憶しておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 【参】 『日本古典文学大系 浄瑠璃集』（岩波書店）		
成績評価方法と基準	<基準>	近世演劇に関する基礎的な知識を身につけられたかどうか、『忠臣蔵』のドラマの趣旨が正しく捉えられているかどうかを判断して、可否を決定する。	
	<方法>	小レポート（20%）、試験（80%）。	
備考			

科目名	近代文学特講 I		
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	日本文学および中国文学作品を読んで、時代とジャンルによる違いを説明できる。	3
科目概要	授業内容	文学理論を応用し日本近代文学の作品を読む。	
	到達目標	文学理論について学び、日本近代文学作品の分析方法について理解する。	
授業計画	(1) ガイダンス 文学理論とは何か？ (2) 作者 (3) 視点 (4) 描写 (5) ジェンダー (6) 読者 (7) 都市 (8) 記憶 (9) 同時代 (10) 語り (11) 本文 (12) 原稿 (13) テキスト (14) 挿絵 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・指定された作品を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・各授業終了時にコメントシートを記入し、提出。 ・「トレーニングシート」に取り組むこと。	
使用教材・参考文献	【教】 河野龍也他編著『大学生のための文学トレーニング 近代編』 2012年 三省堂 【参】 授業時に適宜指示する。		
成績評価方法と基準	<基準> 文学理論を理解でき、それを作品の分析に応用することができれば合格とする。 <方法> レポート60%、受講態度30%、コメントシート10% ただしそれぞれ合格点を満たしていること。		
備考			

科目名	近代文学特講Ⅱ		
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	日本文学および中国文学作品を読んで、時代とジャンルによる違いを説明できる。	3
科目概要	授業内容	舞台映像を実際に観ながら「演劇」について多角的に検証する。	
	到達目標	「演劇」を楽しむのはもちろんのこと、劇作家の思考＝試行を理解する。	
授業計画	(1) ガイダンス 「演劇」とは何か？ (2) 「パフォーマンス」と「演劇」 (3) ミュージカルの世界 その1 世界のミュージカル (4) ミュージカルの世界 その2 日本のミュージカル (5) ミュージカルの世界 その3 宝塚歌劇 (6) オペラの世界 その1 イタリア・オペラ (7) オペラの世界 その2 ドイツ・オペラ (8) プッチーニ「蝶々夫人」を考える その1 演出 (9) プッチーニ「蝶々夫人」を考える その2 翻訳 (10) バレエの世界 その1 「白鳥の湖」ほか (11) バレエの世界 その2 「ラ・バヤデー」ほか (12) 現代演劇を考える その1 野田秀樹 (13) 現代演劇を考える その2 現代演劇最前線 (14) 現代演劇を考える その3 三谷幸喜とコメディ (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	受講までに実際に演劇作品を劇場や公共ホール、あるいは映像で観ておくことが望ましい。	
	事後学習	各授業終了時にコメントシートを記入し提出。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に使用しない。授業中に配布するプリントを用いる。 【参】 扇田昭彦『日本の現代演劇』（岩波新書）ISBN-10: 4004303729		
成績評価方法と基準	<基準> 演劇に対する理解、関心が深められれば合格とする。 <方法> 学期末レポート60%、受講態度30%、コメントシート10% ただしそれぞれ合格点を満たしていること。		
備考			

科目名	日本語教育の基礎 I		
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	・日本語の特徴を説明できる。	1
科目概要	授業内容	日本語を第一言語としない人たちに日本語を指導するために日本語教師として必要な基礎知識を日本語教育の各領域に分けて概説する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母語の学習と外国語学習とを比較しながら、日本語教育の特色が理解できるようになる。 2. 外国語教授法にはどのようなものがあるか具体的に知るとともに、各教授法の長所と短所が理解できるようになる。 3. 17世紀から今日までの日本語教育史の概略が理解できる。 4. 教科書分析の視点を理解し、それに基づき教科書分析ができるようになる。 5. 日本語学習者の音声学習上の問題点とその指導法が理解できるようになる。 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 日本語教育の現状と課題 (2) 日本語教育の特色 (3) 母語の学習と外国語学習 (4) 同上 (5) 外国語教授法のいろいろ (6) 同上 (7) 同上 (8) 日本語教育の歴史 (9) 同上 (10) 同上 (11) 日本語教育のレベル別目標 (12) 日本語教育用教科書について (13) 日本語の音声とその指導 (14) 同上 (15) 同上 		
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材」の該当章を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 	
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容を更に深めるために参考文献を読んだり、小テスト・期末試験で高得点が取れるよう十分に復習したりすること。 	
使用教材・参考文献	<p>【教】 石田敏子『改訂新版 日本語教授法』1995年 大修館書店</p> <p>【参】 日本語教育学会編『日本語教育ハンドブック』1990年 大修館書店 日本語教育学会編『新版 日本語教育事典』2005年 大修館書店</p>		
成績評価方法と基準	<p><基準> 日本語教育の特色、各教授法の長所と短所、日本語教育史の概略、音声学習上の問題点とその指導法が理解でき、教科書分析もできれば、合格とする。</p> <p><方法> 音声小テスト (20点) 教科書分析レポート (30点) 前期末試験 (50点)</p>		
備考	授業回数の3分の1以上欠席した場合、不合格とする。		

科目名	日本語教育の基礎Ⅱ		
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	・日本語の特徴を説明できる。 ・日本語と外国語を比較対照し、その共通点・相違点を説明できる。	2
科目概要	授業内容	「日本語教育の基礎Ⅰ」に引き続き、日本語を第一言語としない人たちに日本語を指導するために日本語教師として必要な基礎知識を日本語教育の各領域に分けて概説する。	
	到達目標	1. 日本語の文字・語彙・文法に関する指導項目が把握でき、それらの指導法も理解できるようになる。 2. カリキュラムをたてる際の留意点が理解できるようになる 3. 四技能(聴く・話す・読む・書く)の学習上の問題点が把握でき、それらの効果的な指導法も理解できるようになる。 4. 各視聴覚教材の特徴がわかり、それらの効果的な使用法も理解できるようになる。	
授業計画	(1) 日本語の文字とその指導 (2) 日本語の語彙とその指導 (3) 同上 (4) 日本語の文法とその教育 (5) 同上 (6) 同上 (7) 同上 (8) ドリルの種類とその練習法 (9) カリキュラムのたて方 (10) 聴解における学習者の問題点とその指導法 (11) 話すことにおける学習者の問題点とその指導法 (12) 読解における学習者の問題点とその指導法 (13) 書くことにおける学習者の問題点とその指導法 (14) 視聴覚教材の特徴とその使用法 (15) 同上		
自学自習	事前学習	・「使用教材」の該当章を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・講義内容を更に深めるために参考文献を読んだり、小テスト・期末試験で高得点が取れるよう十分に復習したりすること。	
使用教材・参考文献	【教】 石田敏子『改訂新版 日本語教授法』1995年 大修館書店 【参】 日本語教育学会編『日本語教育ハンドブック』1990年 大修館書店 日本語教育学会編『新版 日本語教育事典』2005年 大修館書店		
成績評価方法と基準	<基準> 日本語教育で扱われるの文字・語彙・文法とは何か、聴解・話す・読解・書くにおける学習者の問題点とは何か、各視聴覚教材の長所と短所が理解できれば、合格とする。 <方法> 日本語教育用文法用語小テスト(30点) 後期末試験(70点)		
備考	・「日本語教育の基礎Ⅰ」の履修者を対象としている。 ・授業回数の%以上欠席した場合、不合格とする。		

科目名	日本語教授法 I		
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	日本語を第一言語としない者に対する日本語の指導法(初級レベル)を理解し、模擬授業を行える。	2
	豊かなコミュニケーション能力・日本文化を発信する能力	日本語を第一言語としない者に対する日本語・日本文化の指導法(初級レベル)を理解し、適切に模擬授業を行える。	2
科目概要	授業内容	コースデザインとは何か、日本語教授法に関する理論などを講義し、その後日本語初級レベル(日本語能力試験N5~N3相当)の指導法を実際に体験する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コースデザインの概要が理解できるようになる。 2. 初級文型とは何かがわかり、文の特徴に合わせた文型練習が既習の日本語だけで手際よく行えるようになる。 3. 初級学習者向けにフォリナートークができるようになる。 4. 初級指導のために適切な教材教具が使用できるようになる。 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) コースデザインの概要(講義) (2) 同上(講義) (3) 同上(講義) (4) 導入のための教室活動(講義) (5) 文法練習の種類と具体的なやり方ーオーディオリンガル法・TPR・CLLー(講義) (6) 初級文型の導入と文型練習の模擬授業(演習) (7) 同上(演習) (8) 同上(演習) (9) 新出語彙の教え方、本文(会話文)の教え方(講義) (10) コミュニカティブアプローチに基づくコミュニケーション活動の教材の作り方および指導のやり方(講義) (11) 新出語彙・文型練習・本文・コミュニケーション活動の模擬授業(演習) (12) 同上(演習) (13) 同上(演習) (14) 同上(演習) (15) 同上(演習) 		
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材と配付プリント」の該当箇所を事前に読んでおくこと。 ・事前個別指導を受けるための予習をしておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 	
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・演習・期末試験に備え、学習した内容を確実に理解しておくこと。 	
使用教材・参考文献	【教】	『みんなの日本語初級 I 第2版 本冊』『同左 翻訳・文法解説』『同左 教え方の手引き』スリーエーネットワーク 1998年	
	【参】	『日本語教授法ワークショップ』凡人社 1996年 田中望『日本語教育の方法-コースデザインの実際-』大修館 1988年	
成績評価方法と基準	<基準>	コースデザインの概要、導入のやり方、文型練習のやり方、コミュニケーションアプローチにもとづく練習のやり方などがわかり、かつ文型練習については実際に行えれば合格とする。ただし、各人2回の演習のうち1回でも無断欠席をした者は、合格としない。	
	<方法>	発言等の積極性(10点)、ニーズ調査表作成(20点)、宿題(10点)、演習(30点)、前期末試験(30点)	
備考			

科目名	日本語教授法Ⅱ		
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	日本語を第一言語としない者に対する日本語の指導法(中上級レベル)を理解し、模擬授業を行える。	3
	豊かなコミュニケーション能力・日本文化を発信する能力	日本語を第一言語としない者に対する日本語・日本文化の指導法(中上級レベル)を理解し、適切に模擬授業を行える。	3
科目概要	授業内容	(1) 中級レベルの教材および内容 (2) 中級レベルの文型の意味と指導法 (3) 中級レベルの教案の作り方 (4) 中級レベルの模擬授業	
	到達目標	(1) 中級レベルの教材および内容 (2) 中級レベルの文型の意味と指導法 (3) 中級レベルの教案の作り方 (4) 中級レベルの模擬授業	
授業計画	(1) 中上級レベルの日本語教育(講義) (2) 〃 (3) 〃 (4) 中級レベルの教案の作り方と指導法(講義) (5) 〃 (6) 模擬授業(演習)およびフィードバック (7) 〃 (8) 〃 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 〃		
自学自習	事前学習	・担当する文型について複数の文型辞典で調べること。 ・教案を作成し、模擬授業の前に事前指導を受けること。	
	事後学習	・模擬授業の問題点を把握し、次回の授業で改善すること。	
使用教材・参考文献	【教】	『みんなの日本語中級Ⅰ 本冊』2008年 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語中級Ⅰ 教え方の手引き』2010年 スリーエーネットワーク	
	【参】	庵功雄ほか『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク 2001年 グループ・ジヤソイ『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版 1998年	
成績評価方法と基準	<基準> 上記の到達目標を達成したものを合格とします。 <方法> 授業での積極性(10点)、演習(50点)、期末試験(40点)で評価します。 上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。		
備考	・今年度「日本語教育実習」(後期科目)を受講する者は必ず受講すること。 ・4回以上欠席したものは不合格とする。(遅刻2回を欠席1回とする) ・模擬授業のための教案指導を課外に行う。		

科目名	日本語教育実習		
担当者	◎新内康子 / SHIN' UCHI, Koko 入佐信宏 / IRISA, Nobuhiro		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 実習・演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	日本語を第一言語としない者に対して、初級・中級レベルの教案を作成し、適切に日本語を指導できる。	4
	豊かなコミュニケーション能力・日本文化を発信する能力	日本語を第一言語としない者に対して、初級・中級レベルの教案を作成し、適切に日本語・日本文化を指導できる。	4
科目概要	授業内容	日本語の初級と中級の教材研究、教案作成、授業観察、教育実習、振返りを行う。	
	到達目標	1. 日本語初級レベル用の教材研究の視点が持てるようになるとともに、教案を作成しそれに基づき効果的に教えられるようになる。 2. 日本語中級レベル用の教材研究の視点が持てるようになるとともに、教案を作成しそれに基づき効果的に教えられるようになる。	
授業計画	(1) 実習に関する全容説明(入佐・新内) (2) 授業の実際(入佐・新内) (3) 初級授業と初級教案作成法(新内・入佐) (4) 中級授業と中級教案作成法(入佐・新内) (5) 1回目実習指導: 初級(新内) 中級(入佐) (6) 2回目実習指導: 初級(新内) 中級(入佐) (7) 3回目実習指導: 初級(新内) 中級(入佐) (8) 4回目実習指導: 初級(新内) 中級(入佐) (9) 実習準備(新内・入佐) (10) 実習準備(新内・入佐) (11) 1回目初級・中級実習検討(新内・入佐) (12) 2回目初級・中級実習検討(新内・入佐) (13) 3回目初級・中級実習検討(新内・入佐) (14) 4回目初級・中級実習検討(新内・入佐) (15) 総まとめ(新内・入佐)		
自学自習	事前学習	・教材研究を前もって十分行うこと。 ・教案作成を行う際には十分検討すること。	
	事後学習	・録画された各実習生の授業DVDを観察して、授業のフィードバックを行い、次の授業改善に努めること。	
使用教材・参考文献	【教】 『みんなの日本語初級Ⅱ第2版 本冊』 『同左 翻訳文法解説』 『同左 教え方の手引き』 1998年 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語中級Ⅰ本冊』 『同左 教え方の手引き』 2008年 スリーエーネットワーク 【参】		
成績評価方法と基準	<基準>	教材研究の成果が反映された教案が作成でき、かつそれに基づいて日本語の初級ならびに中級授業が行えれば合格とする。	
	<方法>	授業観察レポート(10点)、教育実習(70点)、ふりかえり表(10点)、最終レポート(10点)	
備考	1. 「日本語教育の基礎Ⅰ」「日本語教育の基礎Ⅱ」「日本語教授法Ⅰ」をすべて履修し、かつ「日本語教授法Ⅱ」を履修したか履修中の者を対象としている。 2. 時間割上の授業、授業観察、教育実習で2回以上欠席した者は不合格とする。また、遅刻2回につき1回の欠席とする。 3. 実習費6,000円を納めなければならない。 4. 実習授業以外にも時間割の授業以外に行われる指導やグループ作業が多いことを承知してください。		

授業観察：県内の日本語教育機関で実施されている授業を2回観察する。日程等は別途指示する。

初級実習：11月25日-12月16日 毎週火曜日(18:00-20:30)
場所：本学

中級実習：11月28日-12月19日 毎週金曜日(16:20-17:50)
場所：本学

科目名	書道（書写）		
担当者	伊之口 芳至 / INOKUCHI, Yoshiyuki		
科目情報	人間文化＜日本語日本文学＞ / 選択 / 前期 / 実習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	・日本語の歴史の概要・日本語の特徴を説明できる。・様々な文章表現の特徴を理解し、実用文が書ける。・漢字・漢語・漢文脈の文章の読み書きと、漢和辞典の活用ができる。・日本語を正確に美しく書写・表記でき	1
科目概要	授業内容	実技をとおして教育書道、実用書道、芸術書道の接点と相違点を探る。	
	到達目標	書道は、学校生活及び社会生活に必要な基礎的な教養であり、文字を正しく整えて書くことに重点が置かれる。高校や一般の芸術書道となると学習方法並びに学習指導は、表現（書くこと）鑑賞（見ること）と理論（考えること）の三位一体でなされるが、この授業では学習者が教育・実用・芸術書道の接点と相違を理解することにより書写能力を高め表現のための感性を磨くことを目標にしたい。	
授業計画	(1) 漢字の学習 篆書を書く (2) 漢字の学習 隸書を書く (3) 漢字の学習 楷書を書く (4) 漢字の学習 行書を書く (5) 漢字の学習 草書を書く (6) 仮名の学習 平仮名の単体 (7) 仮名の学習 連綿の方法 (8) 仮名の学習 変体仮名の学習 (9) 仮名の学習 俳句を書く (10) 仮名の学習 短歌を書く (11) 落款と印 (12) 漢字仮名交じりの書 身近な言葉を書く (13) 漢字仮名交じりの書 近代詩文を書 (14) 手紙・年賀状・暑中見舞い・のし袋の書き方など (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・前回までの提出作品の確認と整理を行う。 ・前半に小レポートを課す。	
使用教材・参考文献	【教】 野口白汀ほか12名 『書Ⅰ』『書Ⅱ』教育図書2008年 【参】 魚住和晃・萩信雄編『書学挙要』藝文書院2001年		
成績評価方法と基準	<基準> 出席状況と提出作品、簡単なレポート、受講態度。 <方法> 作品70%、レポート10%、出席態度20%		
備考	適宜手本や資料プリントを配布する。		

科目名	書道史		
担当者	伊之口 芳至 / INOKUCHI, Yoshiyuki		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	・日本語の歴史の概要・日本語の特徴を説明できる。 ・日本語と外国語を比較対照し、その共通点・相違点を説明できる。 ・書道の歴史	2
科目概要	授業内容	書の歴史を時代別に区分し、古典を解説しながらその書道史の流れを捉える。	
	到達目標	三千余年にわたる書の伝統と歴史は、書写文字の簡略化と美化の連続であったといえる。日本に伝わった漢字を受容し和様化と仮名を完成した日本人の感性など書の魅力は尽きない。中国と日本の書の歴史を豊富な古典の資料を解説しながら、時代区分を越えて展開されてきた大きな書道史の流れを学習者が把握できるように授業を進めたい。	
授業計画	(1) 中国書道史 文字の起源と甲骨文字 (2) 中国書道史 金文と周代の書法 (3) 中国書道史 秦代の文字の統一と隷書への変化へ (4) 中国書道史 漢代の隷書と用筆美 (5) 中国書道史 草書・行書・楷書の萌芽 (6) 中国書道史 六朝の書と書聖 (7) 中国書道史 隋・唐の楷書 (8) 中国書道史 個性と開放の宗代 (9) 中国書道史 元・明・清の書法とその流れ (10) 中国書道史 帖学と碑学 (11) 日本書道史 漢字の伝来 (12) 日本書道史 奈良時代の書法と写経 (13) 日本書道史 平安時代と仮名の完成 (14) 日本書道史 その後の書道史と今後の書道 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業の初めに前回の授業内容の確認を行う。 ・前半に小レポートを課す。	
使用教材・参考文献	【教】 鈴木翠軒・伊東参州共著『新設 和漢書道史』日本習字普及協会1996年 【参】 藤原鶴来『和漢書道史』二玄社1927年		
成績評価方法と基準	<基準> 出席状況、レポート、受講態度など <方法> レポート70%、出席・受講態度30%		
備考	適宜補充プリントを配布する。		

科目名	英語の文法 I		
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	日常生活において的確に英語を理解し、表現することができる。	2
	豊かなコミュニケーション能力	一般的な事項について、言語や言語外の表現方法を駆使して、的確かつ効果的にコミュニケーションをとることができる。	2
科目概要	授業内容	英語の8品詞、5文型について学び、その機能、具体的な使い方を理解する。	
	到達目標	8品詞の具体例を列挙できること、そして、それらを使って、5文型の中に相当する英文を要領よく作れるようになること。	
授業計画	(1) 文の構造と要素 (2) 文の種類 (3) 動詞 (4) 時制 (5) 助動詞 (6) 動詞の態 (7) to-不定詞 (8) 原形不定詞 (9) 分詞 (10) 動名詞 (11) 関係代名詞 (12) 関係副詞 (13) 比較級 (14) 最上級 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない単語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	品詞、文型、句、節の使い分けについての確認を毎週行う。	
使用教材・参考文献	【教】 河上道生 監修, 丸井晃二郎 著 『ORBIT 総合英語』 山口書店 1996年 ISBN4-8411-1387-8 【参】 なし		
成績評価方法と基準	<基準> 8品詞、5文型を具体的に使いこなせるものは合格とする。 <方法> Class Participation 25%, Homework 25%, Final 50%		
備考	毎回の出席を心がけて下さい。		

科目名	英語の文法Ⅱ		
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	専門的な内容を概ね英語で理解し、表現することができる。	3
	豊かなコミュニケーション能力	専門的な事項について、言語や言語外の表現方法を駆使して、コミュニケーションをとることができる。	3
科目概要	授業内容	英語の8品詞、5文型について学び、その機能、具体的な使い方を理解する。	
	到達目標	8品詞の具体例を列挙できること、そして、それらを使って、5文型の中に相当する英文を要領よく作れるようになること。	
授業計画	(1) 不定詞 (2) 分詞 (3) 時制 (4) 進行形 (5) 完了形 (6) 態 (7) 仮定法 (8) 比較構文 (9) 否定 (10) 数量詞 (11) 法助動詞 (12) 副詞 (13) 代名詞 (14) 関係詞 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない単語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	品詞、文型、句、節の使い分けについての確認を毎週行う。	
使用教材・参考文献	【教】 プリントを使用。 【参】 なし		
成績評価方法と基準	<基準> 8品詞、5文型を具体的に使いこなせるものは合格とする。 <方法> Class Participation 25%, Homework 25%, Final 50%		
備考	毎回の出席を心がけて下さい。		

科目名	英語学概論		
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	英米の言語・文化・文学・歴史に関する深い理解と専門的知識	英米の言語・文化・文学・歴史の専門的事項を的確に理解している。	2
科目概要	授業内容	言語学、そして英語学入門としての授業をおこなう。具体的に言語現象(語、語句、文)を観察、分析する。	
	到達目標	英語学の中に存在する、各分野について学び、それらの区別ができるようになる。	
授業計画	(1) 統語論(1) (2) 統語論(2) (3) 統語論(3) (4) 形態論(1) (5) 形態論(2) (6) 形態論(3) (7) 音韻論(1) (8) 音韻論(2) (9) 音韻論(3) (10) 意味論(1) (11) 意味論(2) (12) 意味論(3) (13) 語用論(1) (14) 語用論(2) (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	数種の言語データの分析を毎週課す。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。 【参】 An Introduction to Language. Victoria Fromkin and Robert Rodman.		
成績評価方法と基準	<基準> 与えられた言語(の文)に対して、言語学的な観察、分析ができるようになったものは合格とする。 <方法> Class Participation 50%, Final 50%		
備考	毎回の出席を心がけて下さい。		

科目名	英米文学概論 I		
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。	2
科目概要	授業内容	19世紀前半のアメリカン・ルネッサンスを中心に、作家や文化的背景を紹介し、作品の抜粋をできる限り原文で読む。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。	
	到達目標	19世紀のアメリカの資本主義の展開と大衆文化の広がり、それに対する作家たちの反応について学ぶと共に、小説作品や映画作品を鑑賞することで英語の読解力や聴取能力を向上させる。	
授業計画	(1) クール1-1: アメリカ資本主義の起源と大衆文化—演劇とサーカス (2) クール1-2: アメリカ資本主義の起源と大衆文化—ヒーローの登場 (3) クール1-3: アメリカ資本主義の起源と大衆文化—『アラモ』を見る (4) クール2-1: エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品① (5) クール2-2: エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品② (6) クール2-3: エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品③—『アッシャー家の崩壊』を見る (7) クール3-1: ナサニエル・ホーソンの文学① (8) クール3-2: ナサニエル・ホーソンの文学② (9) クール3-3: ナサニエル・ホーソンの文学③—『スカーレット・レター』を見る (10) クール4-1: メルヴィルと『白鯨』① (11) クール4-2: メルヴィルと『白鯨』② (12) クール4-3: メルヴィルと『白鯨』③ (13) クール4-4: メルヴィルと『白鯨』④—『白鯨』を見る (14) 質疑 (15) 総括		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・プリントの英文を読み返し、語句や表現を覚える。	
使用教材・参考文献	【教】 プリント、ビデオ 【参】 プリント、ビデオ		
成績評価方法と基準	<基準> 授業内容を理解し、作品中の英文を読み解けること。 <方法> 筆記試験80%、発言20%。		
備考			

科目名	英米文学概論Ⅱ		
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。	2
科目概要	授業内容	ロスト・ジェネレーションのアメリカ文学作品と作家を概観すると共に、英語力を徹底強化する。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。	
	到達目標	20世紀のアメリカの消費社会の展開と大衆文化の広がり、それに対する作家たちの反応について学ぶと共に、小説作品や映画作品を鑑賞することで英語の読解力や聴取能力を向上させる。	
授業計画	(1) クール1-1: 世紀末から大戦期のアメリカ (2) クール1-2: 戦後(1920-)のアメリカ社会 (3) クール1-3: 『キング kong』を見る (4) クール2-1: フィッツジェラルドの生い立ち (5) クール2-2: 『グレート・ギャツビー』を見る (6) クール2-3: 『グレート・ギャツビー』分析 (7) クール3-1: アーネスト・ヘミングウェイの青少年時代 (8) クール3-2: ヨーロッパでの生活と『武器よさらば』 (9) クール3-3: スペイン内乱と『誰がために鐘は鳴る』 (10) クール3-4: 『老人と海』を見る (11) クール4-1: 1929年の大恐慌とその後 (12) クール4-2: スタインベックとカリフォルニア (13) クール4-3: 『怒りの葡萄』を見る (14) 質疑 (15) 総括		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・プリントの英文を読み返し、語句や表現を覚える。	
使用教材・参考文献	【教】 プリント、ビデオ 【参】 プリント、ビデオ		
成績評価方法と基準	<基準> 授業内容を理解し、作品中の英文を読み解けること。 <方法> 筆記試験80%、発言20%。		
備考			

科目名	日本史概説		
担当者	原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi		
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。	2
科目概要	授業内容	古代から幕末・維新への日本史の流れを史料に基づきながらたどっていく。	
	到達目標	自国の歴史について基本的な理解を得、国際社会の中で解説できるようになる。	
授業計画	(1) イントロ (2) 古代から中世へ (3) " (4) 戦国時代から近世へ (5) " (6) " (7) 幕末にいたる江戸時代の史話 (8) " (9) " (10) 近代～ペリー来航から西南戦争まで (11) " (12) " (13) 西南戦争後の殖産興業 (14) " (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	配布プリントを前もって読んでおくこと。	
	事後学習	配布プリントの精読。	
使用教材・参考文献	【教】 プリントを配布する。 【参】 宮地正人編『日本史』世界各国史1 山川出版社 2008年		
成績評価方法と基準	<基準> 時代の流れ、大要が理解できているかを判断基準とする。 <方法> レポートと受講態度で判断する。		
備考	年表、歴史地図必携。 社会人の聴講、歓迎。		

科目名	民俗学概説		
担当者	森田 清美 / MORITA, Kiyomi		
科目情報	人間文化<日本語日本文学(関連)> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
	学芸員科目 / 選択(法定科目名「民俗学」)		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。	2
科目概要	授業内容	人びとの民俗伝承を比較して、それをダイナミックに分析することにより日本人のこころ、生活文化の変容を明らかにする。そのうえで、老人や幼児への虐待・いじめ、老人への詐欺、少子化、若者の就職難・医療・介護などの諸問題を解決していくことを目指す。	
	到達目標	日本人の伝統文化・こころを理解する。そのことにより、現代社会の国内、国外の諸問題解決への対処・対応の仕方を知ることが出来る。そのうえで社会へ貢献する意欲を身につける。	
授業計画	(1) 民俗学とは何か(現代社会における民俗学の視点と応用) (2) 環境民俗学(家と村・町における民俗学・境界の民俗学も含む) (3) 人びとの生業(農業・漁業・諸職、建築儀礼など)・日本人のこころの出所を探す (4) 年中行事の意味(正月・盆・彼岸・講・入学式・学園祭など) (5) 誕生・成人式・結婚・厄年などの問題(人生儀礼Ⅰ) (6) 生と死の意味を医療民俗学などを通して考える。(人生儀礼Ⅱ) (7) 呪術者である修験者と日本宗教(民間信仰・民俗宗教Ⅰ) (8) 弾圧下でも信仰の火を消さなかった浄土真宗系の「隠れ念仏」(民俗 宗教Ⅱ) (9) シャーマニズムと結びついた「隠れ念仏」(民俗宗教Ⅲ) (10) 民俗芸能の保存(太鼓踊・棒踊・神楽など伝統芸能の意味を探る) (11) 今でも生きている昔話と伝説・ことわざ (12) なぜ、現代社会でも妖怪と幽霊が登場するのか。 (13) 過疎の民俗・都市の民俗(現代社会と民俗Ⅰ) (14) 医療と介護の民俗(医療や介護を受ける側から)(現代社会の民俗Ⅱ) (15) 総まとめ(現代民俗学の行方と社会への貢献について)		
自学自習	事前学習	・「使用教材」・「参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味の分からない用語は、民俗学事典などで事前に調べておくこと。	
	事後学習	3回おきに、小レポートを課す。 授業の初めに、前回学んだことに対する質問を課す。	
使用教材・参考文献	【教】	・授業ごとにプリント(小冊子)を次回の分まで配布する。	
	【参】	・福田アヅオ・宮田登『日本民俗学概論』吉川弘文館	
成績評価方法と基準	<基準>	平常点(授業態度・出席 20点)・レポート(20点)・期末試験(60点)	
	<方法>	総合的に、到達目標を踏まえて、民俗学の理解が深まり、民俗社会に貢献する心構えが出来た者を合格とする。	
備考	希望により民俗学巡検(民俗芸能・民俗行事見学・民俗調査調査)を実施。積極的に参加して欲しい。		

科目名	地誌学 I		
担当者	宗 建郎 / SO, Tatsuro		
科目情報	人間文化<日本語日本文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。	2
科目概要	授業内容	地域を総合的に捉える地誌学とはどのようなものかについて①基礎知識, ②地域調査の手法, ③具体的事例の三つのステップで解説します。	
	到達目標	地誌学の基礎を理解し, 地域調査法の簡単な手法を利用することができるようになることを目標とします。	
授業計画	(1) イントロダクション (2) 地誌学の流れ (3) 地域あるいは風土1 (4) 地域あるいは風土2 (5) 地域調査法—統計 (6) 地域調査法—多変量解析1 (7) 地域調査法—多変量解析2 (8) 地域調査法—多変量解析3 (9) 地域調査法—空中写真 (10) 地域調査法—主題図作成1 (11) 地域調査法—主題図作成2 (12) 地域調査法—主題図作成3 (13) 地域を見る—日本と九州 (14) 地域を見る—鹿児島 (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみる。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 【参】 中村和郎・岩田修二編『地誌学を考える』古今書院, 1986年。		
成績評価方法と基準	<基準> 地誌学の用語と考え方について説明できることと地域調査法の利用法を理解していることを基準とします。 <方法> 試験50%, 授業内課題30%, 受講態度20%で評価します。		
備考	授業内で簡単な作業を行います。詳細は必要に応じて指示します。授業の進展状況に応じて内容を修正しながら進めることがあります。		

科目名	地誌学Ⅱ		
担当者	宗 建郎 / S0, Tatsuro		
科目情報	人間文化<日本語日本文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。	2
科目概要	授業内容	地域を総合的にとらえる視点について、①文献の活用、②地図の活用という観点から具体的な事例をふまえてお話しします。	
	到達目標	地域について、文献や地図を活用して調査をする基礎的な方法を身につける。	
授業計画	(1) イントロダクション (2) 文献に見る地域の姿1 (3) 文献に見る地域の姿2 (4) 文献に見る地域の姿3 (5) 統計に見る地域の姿 (6) GISとは (7) 統計による主題図の作成1 (8) 統計による主題図の作成2 (9) 統計による主題図の作成3 (10) 地図に見る地域の姿 (11) 地図をつくる1 (12) 地図をつくる2 (13) 地図をつくる3 (14) 地図・図表を用いたプレゼンテーション (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	地域調査の手法について復習しておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。必要に応じてプリントを配布します。 【参】 後藤真太郎他『MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座』古今書院 2007年		
成績評価方法と基準	<基準> 文献、地図を用いた地域調査法が身に付いている事を基準とします。 <方法> レポート50%、授業内課題30%、受講態度20%		
備考	授業の中で実際に作業を行います。		